



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

92.1.14 No.3522

重大局面むかえた清算事業団肉争!

三者懇のゆきざりに揺れる国労

(公益委員)(労働側)(使用者側)

解雇撤回の原則こそ勝利の道

中労委の即時命令を待ちとうろう

清算事業団闘争破壊策動は、九二年春を前にして再び激化・激突過程に突入している。

敵の攻撃を見据え、事業団の仲間の怒り、不屈の闘いをあくまで共有し今春、全力でたたかわなければならぬ。

「三者懇」の動き

九一年九月以降

中労委「三者懇」の場で話し合い解決に向けた事情聴取が行われた。その中で中労委は国労に対し「自らの和解案を作成し示せ」と指示。

※これは、国労中央の「和解路線」―動揺と屈服路線を見すかした中労委が命令を出すことも、職権和解の手續きに入ることも行わずその責任を放棄し、逆に国労(中央)と清算事業団労働者に全面屈服を強要してきたことに等しい態度に出たのである。

十二月二十五日

「三者懇」の見解が国労に提示される。

① 問題解決にむけて早急にかつ積極的な取り組みを行う必要があり中労委は一層の力を傾注する。
② そのために労使に対し問題解決に向けての案を示し合意形成を図る。



③ 労使合意の目標を平成三年度末とする。

④ それまでに合意に至らない場合は、中労委は最終的な解決案を示して決着を図る。

というものであり、これに先だつた十二月四日衆議院運輸委員会と奥田運輸大臣は、「JR経営者各位に対し、救済といいますが和解と申しますか、こういったかたちで汗をかけたということございませうから、これは致します」「和解あつせんということが係争の干渉ならぬ範囲でできるだけそういう方向で話でまいりたい」と発言。

怒りなしにこの提示案、発言をみることはできない。

抽象的な決意表明は、解雇撤回の意志の無いことを証明しているようなものであり、①については、清算事業団問題の解決とは到底ほど遠い、案が示されてくることは明らかではないか。

彼らの意図は見え見えではないか。

要するに、「これだけ努力したのだから全面的に案をのめ」と出してくることは明瞭ではないか。

清算事業団問題の解決とは、全員の解雇を撤回することである。そのことを抜きにしていかなる「誠意」も、努力もペテンにすぎない。

中労委は、即時命令を出せ

闘争団、争議団は、決意も新たに、結成から二年目の春を迎えている。清算事業団闘争をとりまく情勢は、闘争団・争議団の不屈のがんばりによる団結の堅持とJR

総連の分裂・崩壊といった諸条件によって勝利に向けた決定的チャンスをかえっている。

しかし、国労指導部は、事業団闘争のもつ重大な意義を見ることなく、事業団の仲間の不屈な闘いに真正面から応える姿勢を欠き、ひたすら「和解」にしがみつき、闘争の終えんを乞い願っているのが現実の姿である。

こうした指導部の動揺が、中労委の責任回避を許し、解雇撤回闘争の前進を阻んでいるのである。

国労中央の屈服・和解路線を許さず、敵の新たな事業団闘争破壊策動を打ち破るため今春全力でたち上がろう。

決意新たなる92年の闘争スタート

反対同盟旗開き盛大に開催

「三里塚闘争は、九二年あたりしついに突入した。」

北原事務局長の力ずよい年頭の動、三月二十九日の全国集会を大成、挨拶で反対同盟の「九二年新年団結旗開き」は開催された。

旗開きを皮切りに、一月一七日の「公開」シンポに対する大衛宣戦、三月二十九日の全国集会を大成、挨拶で反対同盟の「九二年新年団結旗開き」は開催された。

二六年間「不屈・非妥協・実力闘争」を掲げ闘いぬき、特に一部の脱落派による農地売り渡しと一体の「公開シンポジウム」攻撃に

対しては、あくまでも話し合い拒否、農地死守を基本に反対同盟は、一丸となつてはねかえし、九一年を勝利しぬいてついに九二年へ勇躍突入したのである。

敷地内の市東東市氏は「九二年を躍進の年としよう」と全参加者に訴えた。

